

くまもとの水を活かし、続ける。 地域の明日を支えるために。

熊本県の基本方針

民間の経営ノウハウ等活用による経営改善

老朽施設の更新と継続的な人材育成

ユーザー企業や共同管理者の理解確保

未利用水の有効活用の促進

地域経済の成長、地域社会の
持続的発展への貢献

SPCの経営方針

方針 1 事業環境の変化に対応する
しなやかな経営

方針 2 実績・経験に基づく技術力の
発揮と次代への継承

方針 3 絶え間ない経営改善による
安定供給と効率化追求

方針 4 透明な事業運営により理解と
信頼を獲得

方針 5 地域社会の一員として
その持続的発展に貢献

安定 供給

危機時の安定供給を目的においた 「しなやか経営」を実践します

● 実績を活かした堅実な事業実施体制

- 経営及び事業運営においても、全国で豊富な実績を持つ当グループの人材、ノウハウ、ベストプラクティスを結集し、様々な事業環境の変化に対して安定供給を担保するための堅実な対策を実施します。

● 地域に根差した人材基盤の構築

- 人員の多くは、経験を有する地域在住者を配置します。さらに安定供給を持続するためには継続的な人材育成を行いつつ、地域の若年層を雇用することで、計画的に年代構成に偏りのない技術人材基盤を構築し、安定供給を受け継いでいきます。
- 「地域の一員」となるためには、現場を支える技術者のみならず管理職層以上の人材育成も必要です。SPC は、構成員の支援のもとで定期的な人材の流動、交代、昇格を前提とした人事経営を行います。

● 適切なリスク管理と明確な危機管理体制

- 安定供給のためには、様々なリスクを想定し、その対応策を予め検討しておくことが有効です。SPC はリスクマネジメント責任者を定め、各種リスクの洗い出しと期間中のリスク管理を行い、施策の見直しを実施します。
- 地震や豪雨など想定外の危機への備えも危機管理上必要です。有効な対応手法の一つは年に1回のBCP訓練です。訓練で対応計画の精緻化と、訓練実施による人的な災害対応力向上により、想定外の危機から高速に復旧し安定供給を維持します。



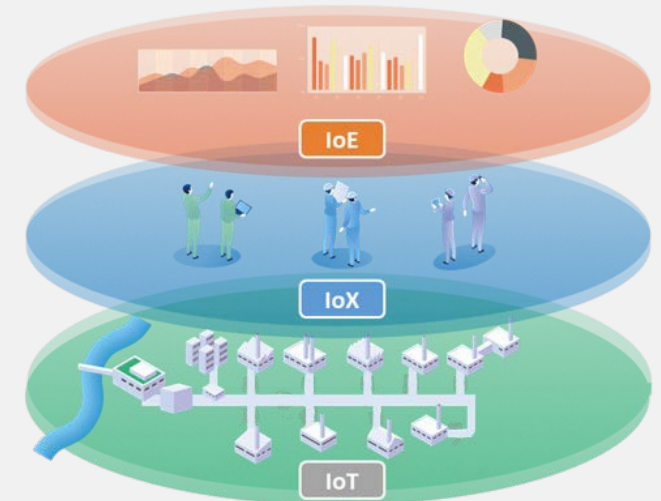
〈他事業のBCP訓練の様子〉

経営 効率化

デジタルトランスフォーメーションにより 業務フローを変革します

● ICT を活用した先進的事業運営と透明性確保

- 維持管理業務、財務会計業務、調達業務、顧客管理業務には、最新のデジタルサービスを順次導入します。業務フローを変革し、従来の業務手法から転換することで、抜本的な効率化と業務プロセスの透明性、追跡性を確保します。
- クラウド集中監視、要所の流量監視、そしてスマートメーターの導入促進によって、取水以降の工水ネットワークを可視化し、問題の早期発見と解決に結びつけるとともに、さらなる運転管理効率化を図ります。



〈ICTを活用した先進的事業運営〉

● 専門技術を駆使したアセットマネジメント

- 類似事業で開発したアセットマネジメント専門技術を駆使し、施設や設備の状態把握や重要度等を踏まえた長寿命化を行い、リスク抑制と費用圧縮を両立した経営効率化を追求します。

● 柔軟な事業計画立案

- 事業計画の確実性とのバランスを取りつつ、過度な長期固定契約を避け、事業環境変化を踏まえた柔軟な対応を行います。

地域 貢献

地域に貢献する事業であること
それが「チームくまもと」を貫く軸です

●プラットフォームを活用した企業誘致と工業用水の価値創造

- 未利用水活用の特効薬は、ユーザー企業の需要増加と新規ユーザー獲得です。当グループでは厳しい経済状況を踏まえて、地域プラットフォームにおける発信活動を通じて、貴県と連携した企業誘致や工業用水の新たな価値を創造していきます。

●ユーザー企業、地域へのメリットの還元

- 地域の持続的な発展を第一とする観点から、「地域との協働」を積極的に推進します。SPC 発注業務の県内企業への積極的発注に加え、地域プラットフォームを活用したユーザー企業のマッチングや、本事業の県内外への情報発信を実施します。
- 本事業で得た利益の一部は、地域への協力金の支出や、美化活動への協力、イベントへの参加、協賛といった地域活動への参画を通じて目に見える形で還元します。



〈地域協働・還元〉

●環境へ配慮したクリーンエネルギーの活用

- 地域貢献は経済活動や雇用確保だけでなく環境的貢献も重要です。特に環境影響が大きい電力については、コストだけを重視せず、新電力採用やPPA 事業検討を通じ、クリーンエネルギーを活用します。